

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果と今後の指導について

羽島市立足近小学校

1. 国語

(1) 結果

教科全体の平均正答率は、全国や県の平均より上回っている。

- ・知識及び技能の正答率は全国や県の平均より上回っている。漢字を書く問題においては3問とも県の平均を上回る結果となった。
- ・「話すこと・聞くこと」は全国や県の平均とほぼ同じである。
- ・「書くこと」は全国や県の平均を大きく下回る結果となった。
- ・「読むこと」は全国や県の平均を上回っている。

→特に、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに弱さが見られた。問題点についての解決方法を考えることや表現の効果を考えて読むことが苦手である。

(2) 今後の指導

- ・創造力や発想力を高めるために、教師から与える活動ではなく、児童が主体となった自由な活動の実施に取り組む。総合的な学習の時間や様々な教科、委員会活動など多様な場面で取り組んでいく。国語科だけではなく、生活科や社会科でもキーワードを使ったまとめを児童自身に書かせる場を増やす。また、読書を通して主人公の行動や情景描写から心情を捉える力を育て、児童一人一人の感性を磨く場を位置づけていく。
- ・答えが1つではないことの話し合い経験を豊かにする。自分の考えをきちんともち、仲間の考えを聞いて、それが広がるよさを児童自身が実感できるようにする。意図的にスキルや学級活動など場の設定をしていく。
- ・家庭学習の漢字ドリルの進め方を個に合わせた方法（20問のページを10問ずつ出題する等）にする。また、宿題として出して終わりではなく身についたかを確認するミニテストを行うなど見届けまでを行う。

2. 算数

(1) 結果

教科全体の平均正答率は、県の平均より上回っているが、全国の平均より下回っている。

- ・「図形」「データの活用」は全国や県の平均を上回り、特に「データの活用」は平均正答率が高い。
- ・「数と計算」「変化と関係」は全国や県の平均を下回っている。

→特に、基礎的な計算の仕方の定着に弱さが見られた。かけ算の計算や最小公倍数を求める方法を理解できていない児童が多いことが分かった。

(2) 今後の指導

- ・2年生での九九、3・4年生での筆算の仕方、5年生での割合などその学年で学習する内容を確実に身につくまでやりきらせる。学習した内容を繰り返し練習して、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- ・問題で求めることが理解できる読解力を身につけさせる。3年生の折れ線グラフ・4年生の棒グラフ・5年生での円グラフの学習で表題や単位をしっかりとおさえる指導を行う。
- ・計算する前に見通しをもってから計算する経験を積んでいく。答えはこれくらいの大きさになりそうだという感覚をもち、それから計算できるようにする。そのために問題場面を自分の生活と関わらせて考える場を増やす。

3. 理科

(1) 結果

教科全体の平均正答率は、全国や県の平均より上回っている。

- ・「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を中心とする4領域全てにおいて全国や県の平均より上回っている。その中でも、「エネルギー」を中心とする領域の平均正答率が高い。

→コロナ禍で実験などができなかった部分もあるため、実験器具の名称を答えることが苦手である。また、実験の結果を分析して自分の考えをもつことに弱さが見られる。

(2) 今後の指導

- ・実験器具の名称や使い方など基本的な学習内容を確実に指導する。観察や実験を安全に行う方法も指導する。
- ・授業の流れとして、実験結果から考察する場を十分に位置づける。見つけた問題について、結果からどんなことが言えるのかを自分の言葉で書く活動を増やす。また、ペアやグループで考えたことを交流する活動を通して、観察や実験から学習したことを整理できるようにする。

4. 児童質問紙調査

(1) 結果

- ・主体的・対話的で深い学びの視点では、学級の仲間との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童の割合が低い傾向にある。
- ・算数については「勉強が好きである」「授業の内容がよく分かる」と答えた児童の割合が全国や県平均を上回るが、国語と理科は全国や県平均を下回る結果であった。
- ・授業中に自分で調べる場面においてタブレットをよく使用すると答えた児童の割合は高い。その一方で自分の考えをまとめ、発表する場面でICT機器をよく使用していると感じている児童の割合は全国や県平均を上回ってはいるが、大変低い回答率である。
- ・朝食を毎日食べたり、毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりするなど基本的な生活習慣が身についている。
- ・平日に1日あたりにテレビゲームや動画視聴などを2時間以上行っている児童の割合が多い。
- ・「自分にはよいところがある」や「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童の数が少なく、周りから認められていると感じられていない児童が多い。
- ・読書が好きだと回答している児童が多く、授業時間外でも読書の時間をとっている児童の割合が高い。

(2) 今後の指導

- ・児童一人一人のよさを認めることを増やし、児童が自分のよさに気づき、自信がもてるようにする。また、児童会を中心に「ホカホカレター」の取り組みを活性化し、児童間でも互いのよさを認め合える場を設定する。
- ・ICT機器を効果的に活用しながら、自分の考えを伝えられる場面を増やす。その体験を積み重ねていくことで児童一人一人が「わかった」「できた」と感じられる授業を目指す。
- ・家庭でのメディアの使用について、現在の家庭での約束を振り返り、改めて使用についての約束を設定してもらえるように促す。平日のメディア使用が4時間を超える児童も見られるので、約束を見直すことで基本的な生活習慣の改善にもつなげる。